



論文捏造

村松秀著

中央公論新社 2006 (中公新書ラクレ)

所蔵館 請求記号

本館：X/081/C64L/226

神田分館：/407/Mu48



知のツールボックス

—新入生援助 (フレッシュマンおたすけ) 集—

改訂版

専修大学出版企画委員会編

専修大学出版局 2013

所蔵館 請求記号

本館：K/377/Se73

神田分館：/377/Se73

【著者プロフィール】

村松秀 (むらまつ しゅう)

1968 年生まれ

1990 年 N H K 入局

科学環境番組部・専任ディレクター

野口 武悟 (文学部教授)

理化学研究所の研究者が起こした STAP 細胞をめぐる研究不正事件 (2014 年) を覚えているだろうか。こうした研究不正事件は、世界中の研究所や大学で、しばしば起こっている。アメリカの“科学の殿堂”ともいわれるベル研究所の研究者が起こした研究不正事件 (2002 年) も、その 1 つだ。この研究者は、『ネイチャー』や『サイエンス』といった一流の科学雑誌に何本もの論文を相次いで発表し、ノーベル賞に最も近いといわれたほどだった。ところが、それらの論文はことごとくねつ造されたものだったのである。なぜ、この研究者は研究不正をしてしまったのか。その背景に迫る白眉な科学ルポルタージュが『論文捏造』である。本書は、NHK のディレクターである村松氏が綿密な取材の成果をもとにまとめたものであり、刊行の翌年 (2007 年) には、科学ジャーナリスト大賞を受賞している。文系の新入生のみなさんにとって、こうした良質な科学ルポルタージュに触れることは、新鮮な知的刺激となるだろう。

ところで、研究不正といわれても、自分には関係ない遠い世界でのことと思っている人が多いかもしれない。しかし、“出典を明記せずにコピペすること”や“調査データを自分の都合の良いように改ざん、ねつ造すること”といえ、どうだろうか。みなさんは、これから 4 年間でレポートを幾度となく仕上げることになるだろうし、卒業論文を書く人もいるだろう。そうしたときに、上記のようなことを不正と知っておかないと、悪いという意識もなくやってしまう可能性は否めない。

さいわい、みなさんは、「専修大学入門ゼミナール」のなかで、『知のツールボックス』をテキストとして、レポートや論文をまとめる際の基本的なマナーやスキルを学ぶ機会がある。しっかりと身に付けてほしい。『知のツールボックス』は、4 年間の勉学のバイブルとなる 1 冊であるから、「専修大学入門ゼミナール」の受講後もいつも傍らに置いて適宜参照することをお勧めしたい。